第 5 回 10/25　「ネット時代の音楽著作権ビジネス」

谷口　元（たにぐち・はじめ）**先生**　　**一般社団法人日本音楽出版社協会 会長**

【最終学歴】　米国 Belmont College, Commercial Music 学部卒業
【主要経歴】
1986 年 8月　株式会社エイプリル・ミュージック（現 株式会社ソニー・ミュージックアーティスツ）入社、出版部所属
1994 年 10 月　エイベックス・ディー・ディー株式会社（現 エイベックス・エンタテインメント株式会社）入社、国際業務担当部長
1995 年 3月　株式会社プライム・ディレクション 取締役
1996 年 7月　エイベックス・ディー・ディー株式会社 取締役 国際本部国際部長
1998 年 7月　社団法人音楽出版社協会 理事
2001 年 10 月　社団法人日本音楽著作権協会 理事
2004 年 6月　社団法人音楽出版社協会 常務理事
2005 年 4月　エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社 取締役 国際戦略室長 兼 知財戦略室長
2009 年 11 月　社団法人音楽出版社協会 理事副会長
2010 年 4月　エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社 代表取締役社長（現職）
2010 年 6月　社団法人音楽出版社協会（現 一般社団法人日本音楽出版社協会） 会長（現職）
2010 年 7月　財団法人音楽産業・文化振興財団 理事
2010 年 9月　財団法人音楽産業・文化振興財団（現 一般財団法人音楽産業・文化振興財団） 副理事長（現職）

《講義概要》

本講座の寄附講座団体のひとつである一般社団法人日本音楽出版社協会の会長であり、エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社の代表取締役社長谷口元氏が、ネット時代の音楽著作権ビジネスについて講義を行った。

講義ではまず、音楽出版社のビジネスについて、著作権や原盤権等の解説とともに基礎から分かりやすく説明。音楽業界を構成する 3 業態の役割や音楽産業の現状、JASRAC の概要についても詳細な資料を提示しながら解説した。続いて、表を用いて過去 60 年の音楽環境の変化について説明し、時代ごとに音楽産業に影響を与えた機器やコンテンツ等を紹介しながら、音楽の作り方・楽しみ方・提供の仕方が変化したこと、現代はインターネットの発達により音楽の受取り方の選択肢が広がっていることを示した。また、環境の変化に伴いヒット・成功の尺度を CD の売上だけではなく、幅を拡げて考えることが重要であると言及した。

最後には、ネット時代における音楽産業の国際化の必要性や、イギリスの戦略「クール・ブリタニア」を参考にした日本政府の知的財産戦略について紹介。音楽は他のコンテンツとの親和性が高く、既に海外で認知されているコンテンツ等に付随させて展開させていくことが重要なポイントであるとし、音楽の特性を活かした今後の展望と可能性について言及した。デジタル時代の音楽産業のあり方を考察する上で、必要な知識と考え方を示す講義となった。

《受講生の感想》

●最近問題化しているＣＤなどの音楽の売れ行きが下降している事態について、意外な回答で驚きました。ずっと違法アップロードが原因だと思っていましたが、コンテンツの多様化が原因となっているという事態に、音楽を他のコンテンツと組み合わせて音楽業界の低迷化を防げるという発想が新鮮でした。私は将来プロデュース関係の仕事に就きたいと思っているのですが、ビジネスに著作権はつきものなので、もっと勉強して詳しくなりたいと思います。

立命館大学・映像学部・2 回生

●音楽著作権について著作権ビジネスの現状や課題など様々なことを学ぶことができました。ネットの使用が当たり前となった現在、「音楽」のあり方は大きく変容したと思います。「成功」の考え方が変わったというお話には、とても納得させられました。また、「ネット上には国境が無い」ということもその通りだと思います。音楽がデジタルコンテンツ化し、国境の無い大海へ放たれた現在、権利者、消費者の双方に新しい環境への適切な対応が求められることになるだろうと考えさせられました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●ネット時代の現代において音楽出版社は、ネットを通して音楽ファンに直接アプローチしていくことや音楽産業の国際化を進めていくことがこれからの戦略の一つだということを学びました。ネット時代を生きる私たちユーザー一人一人が著作権について改めて考え、正しい知識を身に付ける必要があると感じました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●作曲家や作詞家から生まれた音楽というプライスレスなものがあえてプライス化することで著作権ビジネスを行うことができ、音楽ファンの元へ音楽が届くまでの流れやそこで生まれる問題とその対策がどのようなものなのかを学ぶことができた。ネット環境の充実している今の時代、音楽産業がネットを通して国際化していくことを推進していくことで日本を世界にアピールすることができ、日本の産業がより一層伸びていくのではという期待を持つ一方、その過程で生じる著作権問題の対策も大切だと思った。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●今日の講義で著作権の法においての著作物の規定が明確に理解できた。これから音楽業界ではエンターテインメントの多様化が見られ、音楽に触れる手段が録音音源以外にもたくさん出てきた。さらに、音楽環境の変化も見られ、ネットの発展により、ヒットの概念も変わりつつあり、今後日本も国内市場だけに頼らず海外へ出て、外貨を得ることは重要だと思った。また、その手段としてネットは有効活用できると改めて感じた。　立命館大学・産業社会学部・3 回生

●著作権や音楽業界、JASRAC の根本的な仕組みや知識を本日の講義で理解を深めることができました。また、私は今音楽環境の変化について興味を持っていたので、とても貴重な話を聞くことができて嬉しいです。技術革新によって私たちの音楽の楽しみ方が自由に選択できるようになったので、音楽業界も対応していかなければならないと思います。

立命館大学・産業社会学部・2 回生